

わが

笑顔でふれ合う 和やかなまちをめざして

いにしえより栄えたまち

野々市市は、石川県のほぼ中央に位置し、肥沃な土地と良質な地下水に恵まれた手取川扇状地の北東部にあり、コンパクトながら多くの商業施設が立ち並び、充実した交通網にも恵まれ大変生活しやすいまちとなっています。

歴史は古く、縄文時代の後期から弥生時代初頭の大集落跡である御経塚遺跡(国指定史跡)や、日



縄文時代の後期から弥生時代初頭の国指定史跡「御経塚遺跡」

本最古の通用貨幣「和同開珎(銀錢)」が発見された白鳳時代末の大寺院跡である末松廃寺跡(国指定史跡)が残っており、古くからこの地が豊かな自然に恵まれた豊穡の地で、多くの人々が暮らし、住み続けてきたことを物語っております。

中世の室町時代になると歌舞伎「勧進帳」でも知られている地元武士団の富樫氏が勢力を強め加賀国の守護として野々市に館を構え、そこを守護所として統治しました。加賀一向一揆の支配となる戦国時代前半までの間、加賀の政治、経済、文化の中心として栄えました。

野々市という地名は、1312年に記されたとする白山本宮(白山比咩神社)に伝わる古文書に、水引神人と呼ばれる人たちが

「野市(ののいち)」に住んでいたという記述から読み取ることができ、これが「野々市」という地名の最古の文字資料と考えられています。

また、1486年に京都「聖護院」の門跡であった「道興」が野々市に立ち寄った際に「風おくる一村雨に 虹きえて の、市人は たちもをやます」と詠んでおり、当時から、人々が集う「市」として「野々市」がにぎわっていた様子うかがえます。江戸時代には、北国街道の宿場町として栄え、現在でも喜多家(国指定重要文化財)をはじめ、由緒ある家屋が残っています。

単独市制への決断

昭和30年から32年に掛けて、一町三村が合併し、現在の野々市の

形になりました。隣接する金沢市などへの通勤、通学の交通の便利さや、区画整理事業により人口が徐々に増加し、コンパクトなまちの中に金沢工業大学と石川県立大学があることから20歳前後の人口が突出して多くなり「若者のまち野々市」の印象を強くしています。

自治体の数を減らすため国が進めた平成の大合併が石川県内でもありました。野々市町にも隣接する金沢市との合併問題が浮上していたのは言うまでもないことです。しかしながら、地方自治体の規模は人口5万人から10万人程度が最も効率よく、住民に対してきめ細かい行政サービスを提供することができると、さらに野々市町の財政基盤が極めて強く、今後地方交付税などの削減が行われたとしても影響は比較的少ないことなどから、平成15年2月臨時議会において合併協議会設置を否決し、単独市制の道を選びました。

平成19年6月、私は3期12年にわたる安田彦三前町長を引き継

ぎ、町長に就任いたしました。就任以来、「住む人が愛着を持って誇れるまち」を掲げ取り組んでまいりました。さまざまな問題がある中、市政施行は最大の課題でした。市制施行することが野々市の将来にとって有益となり、住民の皆さんの幸せにつながると確信していたからです。

まずは、国勢調査(平成22年)で5万人を超さなければ、市となる一番の条件は満たされません。国勢調査にかかわる職員はもとより、調査員をお引き受けいただいた皆さん、一般の住民の方々からも、その熱意は感じられ「市政への第一歩は5万人達成」と、その気運が町全体に広がりました。

翌年、2月の総務省統計局からの人口速報集計結果は5万1885人。大きな一歩を踏み出したのです。

誕生花は市花木「椿」

2011年(平成23年)11月11日、すべてのスタートの日として「1」のつく日、野々市の「市」につながる日、11月11日の誕生花は市の花木である椿、そして石川県内で11番目の市、ということので、

この日「野々市市」が誕生しました。

行政側が市制施行へと準備を進める中、住民の中から今までになかった活動の輪が広がってきました。市民合唱団の誕生をはじめ、各種団体の活発化、積極的な町内会活動が展開され始めたのです。「町から市になる」ことで、そこに住まれる方々の意識に自信と誇りが生まれたのではないかと思えます。

「野々市市第一次総合計画」では「市民協働のまちづくり」「野々市ブランドの確立」を掲げております。「自分たちのまちは自分たちがつくる」という力強い考えが市民協働のまちづくりです。そして、野々市だけが持つ地域の特性や資源を生かしながら、ほかの自治体とは異なる魅力で、知名度や好感度を高めようとするのが「野々市ブランドの確立」です。徐々にではありますが、市全体にこれらのことが浸透してきている手応えを感じています。

たぐさんの笑顔のために

大学時代、政治学の先生が言われた「政治とは人を幸せにするも

の」という言葉に大変感銘を受けました。政治にかかわるようになってからも、私自身が多くの人の出会いの中で、お互いが「笑顔」でいられることが一番幸せなのではないかと感じています。

5年前の国勢調査より、確実に本市の人口は増加しております。住んでよかったまち、笑顔があふれるまちとなるように、市民の皆さんとともにこれからも進み続けていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 13・56 km²
- ◆ 人口 5万1537人
- ◆ 世帯数 2万2639世帯

〔将来都市像〕人の和で 椿十徳 生きるまち (第一次総合計画における将来像)

〔まちの特徴〕石川県のほぼ中央に位置し、多くの商業施設や医療施設と優良な住宅地が立ち並び、交通の利便性があるまち

〔特産品〕かぶら寿し、だいこん寿し、ヤイコン、キウイフルーツ、キウイフルーツワイン、野々市キウイフルーツピネガー、純米吟醸酒「ichihiki」

〔観光〕国指定重要文化財喜多家住宅、史跡末松庵寺、史跡御経塚遺跡

〔イベント〕花と緑のいち椿まつり、野々市じよんからまつり



野々市市長
栗 貴章



夏を彩る「野々市じよんからまつり」

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

全国に先駆けた 地方創生のモデルを目指す

**ムーミンがやってくる！
「ムーミン」の世界を体験
できる施設が世界初進出**

平成29年、飯能市にある宮沢湖を中心とした広大なエリア(東京ドーム4個分の広さ)に、「北欧の霧囲気とムーミンの世界を体験できる施設・metssä(メツァ)」が開



北欧の霧囲気とムーミンの世界を体験できる施設:メツァ
©2015 Moomin Monogatari, Ltd. All rights reserved.

「ムーミン」の作者トーベ・ヤンソンの故郷フィンランドを除き、「ムーミン」を主題とした施設としては、世界初進出となります。

宮沢湖の湖面や森林に代表される雄大な自然は、ムーミン作品のテーマの一つでもある「自然との共生」と合致するとともに、「ムーミン」が棲む自然あふれるムーミン谷の世界を体現するには大変素晴らしい環境となっています。

本市は、メツァの開設を観光によるまちづくりの核とし、地方創生のこの上ない大きな柱に位置付けています。

また、市内には、北欧童話の霧囲気を感じられる「あけぼの子どもの森公園」があり、市内外から多くの来園者でにぎわっています。

今後、メツァを中心に、地域の活性化および地域課題の解決を図り、世界中に「夢」と「希望」を届けられるような、世界から注目される元気で明るいまちを目指していきます。

飯能市を積極的に市内外に発信(横浜市中区との相互交流が盛んに)

「選ばれる自治体」を目指して、飯能市の魅力を市内外に積極的に発信し、認知度や求心力、そして訴求力を高めるためにシティブロモーションを展開しています。特に本市では、都市間交流などの積極的な涉外活動を行っています。

平成25年の鉄道5社の相互乗り入れ直通運転により、西武池袋線飯能駅からみなとみらい線元町・中華街駅(横浜市中区)まで、最短95分で結ばれました。これを引きつかけに、起点と終点の関係である本市と横浜市中区は友好交流協定を締結し、行政間、市民間の相互交流とともに、企業間での交流も盛んになっています。こうし

た交流を進めることで、両都市の豊かな地域社会の創造に寄与するとともに、友好と親善を深めるための幅広く充実した交流が行われています。

また、平成26年8月には、この友好交流協定を具現化し、沿線地域の活性化と相互誘客・交流を実現するため、本市と横浜市中区、西武鉄道(株)、横浜高速鉄道(株)、飯能商工会議所、横浜商工会議所の6団体が行政、民間の垣根を越えて連携し、多様性を都市の活力とする「飯能市・横浜市中区友好交流協議会」を設立しました。

本年8月には、友好交流協議会女性部会が発案した事業として、飯能の子どもたちには横浜の海(青)を、横浜の子どもたちには飯能の山(緑)を楽しんでもらう、そしてその保護者にはほっと一息ついてもらえるような、女性ならではの視点が満載な「青と緑の学校」を開催しました。

特に、飯能の子どもたちは、帆船日本丸での海洋学校や横浜中華

街で異文化を体験し、横浜の子どもたちは、自然豊かな飯能でニジマスのつかみ取りや水鉄砲づくりをするなど、子どもたちにも本市と横浜市の地域資源や相互交流を知ってもらおうきっかけになるとともに、貴重な体験を通じて横浜や飯能がより身近に感じられるまちとなりました。

お笑い、アニメでワクワク!

平成26年4月、(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシーと連携して「日本一のワクワクする街づくり」に取り組むための基本協定を締結しました。

本市の認知度アップと魅力の発信を図るシティプロモーションの一環で、まちづくりや地域の課題解決などにおいて連携し、市民の笑顔と元気あふれる飯能市の創造を推進しています。

「笑い」には、人を元気にする力があります。この笑いの力によって、まちづくり、教育、福祉などさまざまな分野で、本市を元気に明るくワクワクするまちにしようとして取り組んでいます。

市民の皆さんがダンスやカルチャーなどの講座を気軽に楽しめ



(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシーと協定を締結

る「飯能アツさらしー学園」では、よしもと芸人によるバルーン教室など特別講座が開催されています。また、平成26年度は、よしもと芸人と市民で作る「飯能市よしもとふるさと劇団」を立ち上げました。公募で集まった子どもから今年配までの44人が劇団員としてふるさと飯能を題材にした喜劇を演じ、市民の皆さんに笑いと元気を届けてくれました。平成28年2月には、第2回目の公演も決定しています。

また、なかに目を向けると、アニメのキャラクターに包まれた「マノスス」フルラッピングバス(路線バス)が2台走っています。このアニメには、本市を舞台に女子高校生が登山に目覚め、成長していく姿が描かれています。アニ

メに登場する天覧山、飯能河原、商店街などには、市内外から多くのファンが訪れています。

日本一ワクワクするまちを目指して

今後、元気で、明るく、勢いのある「日本一ワクワクするまち」を目指して、さまざまな施策を展開していきます。特に本年は、市民の皆さんに「うれしい、楽しい、素晴らしい」の3つの「しい(C)」を

プロフィール

- ◆ 面積 193.05 km²
- ◆ 人口 8万584人
- ◆ 世帯数 3万3750世帯

〔将来都市像〕共に創る 人と緑がやぐまち

〔まちの特徴〕「森林文化都市」として、森林と人とのより豊かな関係が築かれた自然と都市機能が調和したまち

〔特産品〕西川材(杉、檜)、さといも、じゃがいも、のらぼう、お茶、ぶどう、



飯能市長 大久保 勝



梨、うどん

〔観光〕天覧山、飯能河原、あけぼの子ども森公園、宮沢湖、有間ダム、さわらびの湯、エコツーリズム、アニメツーリズム

〔イベント〕飯能新緑ツアーマーチ、飯能まつり、奥武蔵駅伝競走大会、飯能市よしもとふるさと劇団

実感していただけるような市政運営に取り組んでいます。「飯能に住んで良かった」「飯能って楽しいね」「飯能って素晴らしいね」と市民が実感してくださることが「日本一ワクワクするまち」の実現につながるものと確信しています。

「飯能の再生なくして、日本の再生なし」を合言葉に、全国に先駆けた地方創生のモデルとなるよくなまちづくりに取り組んでいきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

新たな「新宮市」が誕生して10年 「人輝き文化奏でる都市」の実現を目指す

はじめに

新宮市は、和歌山県、奈良県および三重県の県境が接する紀伊半島の東南部に位置し、海、山、川

に囲まれ、温暖で高湿多雨な気候が生み出す素晴らしい自然環境の中にあります。本市を中心とした熊野地方では、この豊かな自然を背景として「熊野信仰」がはぐくまれました。



市民とともに行った、緑の防潮堤3000本植樹

古代には神武天皇東征のコースにあって、日本書紀などには熊野神邑くまののかみむらとして、その名が刻まれています。中世には熊野信仰が全国的に広が

り、「蟻の熊野詣」と言われるほどたくさんの人々が熊野速玉大社くまのはやたまたいしゃをはじめとする熊野三山を訪れ、日本有数の聖地となりました。

明治以降は熊野材の生産地、製紙業や製材業で繁栄するなど、今日まで熊野地方の行政、経済、文化、教育の中心都市として発展し、望郷詩人とも言われた文豪で、文化勲章を受章した佐藤春夫、芥川賞受賞作家・中上健次、「はとぼっぼ」「お正月」などの童謡を作詞した東くめなど、多くの著名人を輩出しています。

本市では、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に登録された地域であり、豊かな自然、深遠な歴史・文化を中心に、「人輝き文化奏でる都市」の実現を目指し、まちづくりを進めています。

1人の犠牲者も出さない 決意で

近年、東日本大震災をはじめ、全国各地で未曾有みぞうの災害が発生しています。

本市においても、平成23年の紀伊半島大水害により、14名の尊い命が奪われ、全壊、流失など住家被害も約3000戸に及ぶなど、甚大な被害を受けました。

発災から4年が経過する中、全国各地からのご支援のおかげで、公共施設の復旧もほぼ完了を迎えました。改めまして、皆さま方のご支援に心より感謝申し上げます。

南海トラフ巨大地震の発生も懸念される中、災害に強いまちづくりを進め、「1人の犠牲者も出さない」ことが私に課せられた命題であり、防災・減災対策を最優先とし

て、取り組みを進めています。

市民の命を守る

「緑の防潮堤」

多重防衛により津波の勢いを削ぎ、逃げる時間を少しでも確保するための大浜緑地整備（第二防衛ライン）としての緑地帯整備）もその一つです。

改正海岸法において新たに海岸保全施設に位置付けられた「緑の防潮堤」の考え方に基づき、既存の防潮堤の背後に盛土、植樹を行うもので、「命を守る森の防潮堤づくり」を提唱・実践されている宮脇昭横浜国立大学名誉教授のご指導を仰ぎ、平成26年8月にはモデル事業として、3000本の植樹を行いました。

現在、一日も早い完成を目指して関係機関との調整を進めています。

まちなかにかつての にぎわいを

かつて本市は、木材の集積地として栄え、商店街をはじめとした

中心市街地は大変なぎわいを見せていました。現在は、ほかの地方都市と同様に中心市街地の空洞化が進み、活力が低下する中、私に課せられたもう一つの命題が、まちなかに昔のぎわいを取り戻すことだと考えています。

本市の特徴として、世界遺産「熊野速玉大社」、国の天然記念物「浮島の森」、国の重要文化財「旧西村家住宅（西村記念館）」、「新宮（丹鶴）城跡」など、市街地内に文化歴史遺産が多数存在していることが挙げられます。

こうした文化観光資源を線で結び、観光ガイドの育成・利用促進、案内看板の充実、公共・民間施設へのフリーWi-Fiの導入促進などに取り組み、まちなか観光を推進しています。

おかげさまで地道な取り組みが実を結び、観光ガイドの利用数も年々増加してきました。まちなかを歩く観光客を見かける機会も増え、大きな手応えをつかんでいるところです。

熊野の玄関口として

昔のにぎわいを取り戻すため、まちなか観光をさらに推し進める

に当たり、その核となるのが、現在整備を進めている文化複合施設です。

本市では、世界遺産として認められた熊野文化を「熊野学」として体系化する取り組みを進めています。文化複合施設はその拠点となる熊野学センターをはじめ、文化ホール、図書館から構成される一大プロジェクトであり、まちなかの新たなシンボルとなる施設であります。

熊野文化の発信拠点として、また熊野の魅力を観るインフォメーションセンターとして、熊野の地を訪れる人々がまず初めに向かう場所となるよう、平成30年度の完成を目指して整備を進めています。

完成後は、文化複合施設からの人の流れをまちなかへと誘導し、にぎわいを創出するため、地域一丸となって取り組んでいきます。

おわりに

平成17年10月1日に新宮市と熊野川町が合併し、新たな「新宮市」が誕生して、本年10月に10周年を迎えました。

この10年間の歩みは決して順風満帆なものではなく、紀伊半島大洪水以降は、ひたすら1日も早い

復旧・復興に向けて邁進してまいりました。

復旧がおおむね完了する中、これからは復興、すなわち災害前よりも魅力的で活力あるまちを作り上げていかなければなりません。新宮市の豊かな自然・歴史・文化、そして私たちの誇りである人情を最大限に生かして、今後も魅力あるまちづくりを進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 255.43 km²
- ◆ 人口 3万507人
- ◆ 世帯数 1万5519世帯

〔将来都市像〕人輝き文化奏でる都市
〔まちの特徴〕和歌山県の東南端に位置し、熊野川を隔てて三重県と接した山と海に囲まれたまち。また、当地方は「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されている

〔特産品〕めはりずし、さんま姿ずし、なれずし、茶がゆ、天台烏薬、熊野の



新宮市長
田岡実千年



地酒、銘菓

〔観光〕新宮城跡・雲取温泉・浮島の森、静峡、熊野川温泉さつき、熊野川舟下り、熊野古道（大雲取越・小雲取越・高野坂）

〔イベント〕お燈まつり、熊野速玉祭（御船祭）、扇立祭、熊野徐福万燈祭、新宮花火大会、新宮秋まつり、新宮・那智勝浦天空ハーフマラソン大会



まちなか観光スポットの天然記念物「浮島の森」

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

須崎市長

楠瀬耕作くすのせこうさく

ガラパゴスな資源・人財を磨き 次世代につなぐ元気創造のまちづくり

ガラパゴスのゆえん

高知県は、西日本一急峻で高さのある連峰「四国山地」で屏風を立てたように瀬戸内圏と隔てられており、前方は遙かなる太平洋。そのような地勢的条件の下、男性は「いごっそう」、女性は「はちきん」と評されるように、独特の文化がはぐくまれ、観光地も食材も埋もれているものがまだまだたくさんあります。

高知県のほぼ中央部に位置する須崎市は、四国一の産業港須崎港を中心に、大正時代には周辺山間地からの木材・木炭など、戦後は石灰石やセメントの移出、農林水産素材の提供地などとして繁栄してきました。言い換えると、人財も含め本市の資源を都会に出すことが第一義で、ガラパゴス的な価値や

文化を磨き上げる努力があまり見られませんでした。高知県内で積極的に進められている地産外商は後者の磨き上げが伴ってこそ地域に本来の効果をもたらすと考えています。そのような中で、少子高齢化が進み人口減少にいかに対峙していくかという時代を迎えました。

須崎プライドの形成と 防災対策

本市は、海岸線が約120kmあり、過去より地震津波の被害を受けてきました。東日本大震災のときも3m20cmの津波が押し寄せ、陸部に浸水被害が発生しました。過去の教訓を基に「西日本一の防災都市」を目指し「一人の犠牲者も出さない」取り組みを進めています。国直轄の須崎湾口津波防波堤（1420m）も概成し、防潮堤と

合わせて多重防御の体制が整いました。また、市内87カ所の緊急避難場所整備、教育施設をはじめとする公共施設の耐震化も進展し、津波漂流物からまちを守る「漂流物バリア」も建設しました。

ソフト面では市内全域に自主防災組織が結成され、その活動資金として毎年補助金を予算化しています。小中高の防災教育も全国屈指と評価をいただいております。例えば高知県立須崎高校の生徒が戸別訪問によりアンケートや家具の固定を実施したり、中学生への防災出前授業を実施したりしています。これらの取り組みは、生徒たちと地域のつながりを強固なものにし、社会参画を促進するといふプラス面が大きく出ています。また、前述のハード整備は津波防災観光への道を開いています。地



すさきすきキャラ「しんじょう君」

域の弱みを強みに置き換えていく体制ができてつつあります。

新しい価値の創造としては、本年3月「すさきがすさき産業振興計画」を策定し、産業・移住・福祉・人財育成にわたる53の個別事業を、5年計画でKPI（重要業績評価指標）を設定し、PDCAサイクルに乗せていきます。特に重視したのが「誰がやるのか」を明確にし、官民でフォローアップしていくことです。

例えば、須崎プロモーション事業として、平成26年の「ゆるキャラグランプリ」で全国4位だった「しんじょう君」（本市で最後に目撃されたニホンカワウソがモチーフ）を活用した取り組みとして、平成27年9月に「ご当地キャラまつりin須崎」を開催したところ、

全国から約6万5000人の方が来場し、規模では全国第4位、中四国では最大のキャラ祭りとなりました。これを5年後に年間経済効果100億円、本市のB-1グルメである「鍋焼きラーメン」と合わせてアジア展開することを目標としています。

また、オリンピックや国体の正式種目であるオープンウォータースイミングや、ドラゴンカヌー・シーカヤックなど、海洋スポーツのメッカとなるよう取り組んでいくこと、若手芸術家の育成と市民文化の調和を目指した「アーティスト・イン・レジデンス須崎」の取り組み、地域リーダーの育成を目的とした「須崎未来塾」の取り組みなどを市民の皆さまと一緒にやっていくこととしております。



B-1グランプリにも参加をしている「鍋焼きラーメン」

ここ2〜3年で、市内の若手を中心とした複数のグループが、自分たちも楽しんで地域を盛り上げたいとの思いで、多くのイベントなどが開催されており、新しい須崎プライドが醸造されていると実感しています。

公助としての環境整備

そのほか普遍的な課題として、住民自治をいかに高揚させるのか、企業・他自治体あるいは外国といかに連携していくかなどがあると思います。地方財政は厳しさを増し、今後公共施設の老朽化対策など、市民の目に見えにくい場所の財政需要が大きくなってきます。しかし、その中でも地域独自の新しい価値の創造と育成がなければ地方創生もおぼつかなくなります。本市も新しい価値の創造のための環境整備として、最大の特徴である港湾機能の強化、高台開発、魚市場の再開発、防災対策の強化などハード整備を公助として取り組まなければなりません。それには行政としての連携力と創造力が不可欠であると考えます。職員とともに前例にとらわれることなく「未来へつなぐ元気創造のま

ち」を目指し邁進（まいじん）していきたいと考えております。

最後に広域観光博覧会の宣伝です。平成28年4月10日より12月25日まで、須崎市・津野町・梶原町・中土佐町・四万十町の広域連携で「2016奥四万十博―四国カル

プロフィール

- ◆ 面積 135.44 km²
- ◆ 人口 2万3176人
- ◆ 世帯数 1万1055世帯

〔将来都市像〕 未来へつなぐ元気創造のまち

〔まちの特徴〕 四国一の産業港である須崎港を擁し、明治以降、商工業・農林水産業を中心に発展してきたまち。JR土讃線発祥の地であり、3本の国道があるなど、高知県における陸運・海運の交通結節点でもある

〔特産品〕 ミヨウガ、キュウリ、シシトウ、カンパチ、タイ、イセエビ、ウツボ料理、新子（宗田鯉の一年魚）、鍋焼きラーメン、土佐打刃物、石灰石、梱包材、虎斑竹



須崎市長
楠瀬耕作



〔観光〕 鳴無神社、土佐藩砲台跡、すさぎSATまちかどギャラリー、横浪黒潮ライン、各種体験観光（海洋スポーツ・養殖漁業・農業）、桑田山雪割り桜、坂本龍馬首切り地蔵、鍋焼きラーメンめぐり、磯・船・川釣り、巡航船

〔イベント〕 須崎短縮マラソン、雪割り桜まつり、野見の潮ばかり、須崎まつり、須崎市ドラゴンカヌー大会、新子まつり、須崎うづぼまつり、ご当地キャラまつりin須崎、すさぎオープンウォータースイミング、鯛伊食祭、野見湾元気なお魚まつり、海の駅須崎の魚まつり、アーティスト・イン・レジデンス須崎

ストから土佐の大海原へ」を開催します。この1市4町には四万十川の源流があり、四国カルストから太平洋までガラパゴスな豊かな自然と人情があります。癒しとデトックスの旅にぜひお越しください。心よりお待ちしております。

※ 面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。